

令和6年度 福岡市PTA協議会 PTA啓発研修大会 熱男のこぼ「松田宣浩」熱男流 子育て論

令和6年度啓発研修大会の講演会はなんと元福岡ソフトバンクホークスの松田宣浩氏とアサデス。KBCより西田たかのり氏に「熱男のこぼ「松田宣浩」熱男流子育て論」と言うテーマでお話していただきました。

ポジティブマインドという言葉を主軸に松田氏の考える子育て論やプロ野球選手になるまでの人生そして今の自分があるのはやはり家族や周りで支えてくれた方々の力なしではなしえなかったことを西田氏のMCによる軽快なテンポでやり取りする中で会場は終始大盛り上がりでした。



発行所
福岡市中央区舞鶴
1丁目4番13号
福岡市舞鶴庁舎6階

発行人
会長 岡村耕二
広報委員会

福岡市PTA協議会
ホームページ
<http://www.fukuokacity-pta.jp>

福岡市PTA 検索

印刷株式会社西日本新聞プロダクション



尚この様子は後日アーカイブ配信を予定しております。是非閲覧していただき「PTA」ってこんなことも行っているんだとご興味を持っていただけたら幸いです。

研修委員 中川・相田

講演の最後にはサプライズプレゼントに松田氏に因んだアルファベットと番号で会場の席番号を無作為に選びその席に座られた方5名にサイン色紙と記念撮影を行っていただきました。さらにサインボールを会場に投げてくださいました。まさに会場は現役時代のPayPayドームさながらの盛り上がりを見せておりました。

松田氏ご自身がプロ野球選手という過酷な道を進んだなかで息子さんには同じ道を進むことを後押ししつつも違う道の選択肢を広げてあげる努力もしているように、これほどの人生経験をしてきた方にも子育てにおいて正解がないと常に模索しながら子どもと共に歩み続けることの大事さを説いていただきました。

今年度の啓発研修大会では、PTA会員の中でも「これまで参加したことなかった方」を中心に、1人でも多くの方に参加してもらえることを目標として、委員会内で入選を重ねて、松田さん・西田さんの出演が決まりました。

結果として、募集開始後すぐに定員の500名に達するご応募をいただきました。本当に嬉しく思っています。当日はサイン色紙やサインボールのプレゼントなど、来場者が参加できる仕組みを取り入れたことで、アンケート結果では、多くの方が高い満足度と、好意的なコメントを頂くことができました。

本大会の経験を活かし、より多くの方が楽しみな方が参加できるPTA活動につながりたいと思います。

研修委員長 松本



「啓発研修大会を終えて」

目次

- 01 | 啓発研修
- 02 | 早寝早起き朝ごはん啓発講演会・令和6年度 福岡市PTA協議会 会長合同研修会 担当副会長合同研修会・校長先生コラム
- 03 | 第69回日本PTA九州ブロック研究大会 長崎大会・第72回日本PTA全国研究大会 川崎大会 次期開催地 大会実行委員長のご挨拶・第79回指定都市PTA情報交換会 熊本市大会
- 04 | 令和6年度予算要望書の回答について・学校自慢募集・福岡市PTA協議会・全市一斉PTA研修講座 動画配信 編集後記・モニターアンケート

令和6年度予算要望書の回答について

令和6年5月28日に予算要望書の回答をいただきました。
まず大きな変更点は6年度の教育費を前年度からの伸び率10%を確保し福岡市からの教育に関する予算を増額していただきました。

福岡市が目指す子ども像として

【やさしさとたくましさをもち、ともに学び未来を創り出す子ども】を目標に今年度も活動していただいております。

6年度の教育予算重点目標として

確かな学力の向上	特別支援教育の推進	教員が子どもと向き合う環境づくり
学習指導員派遣事業etc.	特別な支援を要する児童生徒の学習環境の整備etc.	学校マネジメント支援事業etc.
いじめ・不登校等の未然防止・早期対応	安心して学ぶことができる教育環境の整備	
学びの多様な学校(不登校特例校)整備事業・ 教育支援員配置事業etc.	建替え事業etc.	
これからも子どもたちのより一層充実した学校環境を作ることに是非みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。		



令和7年度教育予算要望書提出

昨年は保護者全員対象のアンケートにご協力いただき誠にありがとうございました。
教育問題委員会にて精査し7年度要望書へ反映させていただきました。

1.設備	●トイレの洋式化と老朽化したトイレの改善 ●熱中症対策としての体育館へ空調導入	4.学校運営	●教職員の増員による人手不足の解消 ●成績評価基準の明確化 ●学童の預り時間の拡充 ●教室不足の為、増築増設をしてもらいたい ●いじめ問題について外部講師などに依頼し子どもたちへ教育していただきたい。
2.児童・生徒	●不登校児童をサポートする人材の増員 ●給食室へのエアコン設置		
3.安全面	●通学途中の交通量の多い道路の整備 ●高等部のスクールバス利用 ●教室への空気清浄機設置・教科書や副教材のデジタル化		

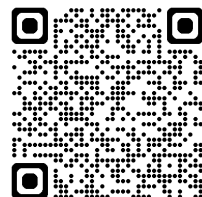


令和6年度
予算要望書PDF▶



学校・PTA自慢募集中！

ご自身の学校の自慢やPR何でもOK！
ふようの記事に載せてどんどんアピール
お願いします。
たくさんのご応募お待ちしております。



編・集・後・記

ご覧いただきありがとうございます。
皆様、広報紙「ふよう」の名前の由来をご存じでしょうか。
<ふ>くお<く>か<く>か<く>まかもんではなく！
福岡市の花にも制定されている「フヨウ」から名付けられたそうです。
私も広報委員になって初めて知りました。
今号では各校PTAの魅力や自慢を募集いたします。
各校での良い取り組みや活動を知る事でより良いPTA活動に繋げていただく一助になれば幸いです。
皆様からのたくさんのご応募をお待ちしております。
私たち令和6年度広報委員会は、大いに楽しみ、時に真面目に活動いたします。
どうぞよろしくお願いいたします。



広報委員長 稲富 絵美

福岡市PTA協議会・全市一斉PTA研修講座 動画配信

単位PTAの役員向けに開催しております
ました全市一斉PTA研修講座を、
今年度は福岡市PTA協議会の
YouTubeチャンネルにて配信して
おります。福岡市PTA協議会の活動
紹介や人権についての講座、過去の
研修会での講演なども視聴する
ことができます。詳しくはQRコード
を読み取って是非視聴してください。



福岡市PTA協議会
YouTubeチャンネル



145号 モニターアンケート

- 本当に必要なイベントや事業や実現可能な事を精査して載せればよい。
 - PTAに加入していて良かったなど思える記事を今後も掲載してほしい。
 - いろんな取り組みやイベントをもっと載せてほしい。
 - 「ふようのデジタル配布」についても考えてほしい、印刷のコスト、効率化を考えると断然デジタルが良い。
 - カラフルで見やすかったです。
- 多数アンケートありがとうございます。今後も様々な意見や感想を広報委員会のなかで検討し反映できるようにします。

第69回日本PTA九州ブロック研究大会 長崎大会

令和6年10月26日・27日 出島メッセ長崎

学びを实践へ！ ～集まろうで 語り合おうで やってみようで～



【第1分科会 組織・運営】三宅小学校PTA会長清水敦さん、PTA前会長白水陽介さんが「それぞれの想いでつなぐ未来～たくすパトンとたくされるパトン！理解を深めあう活動のその先に～」を発表されました。

三宅小学校で取り組まれている、みやけキャンドルナイトや、卒業記念イベント等実践活動を報告され、PTA活動が子どものための活動であるのももちろんのこと、保護者の成長の場としての役割を果たす必要があり、そのためには、福岡市PTA協議会などの大きな団体の力を借り、様々な講習や講演を受けられる環境の提供や、他校との情報共有などが必要不可欠であり、同じ悩みをもつ保護者や地域の先輩方との交流、子どもの悩みに関する講演会への参加など、親として成長できる一つの場になるのではないだろうか。子どもたちに見せる背中には自分で磨く必要がある。ただ、PTA活動をする際、人にはそれぞれ環境があり、やれる人、今はやれない人、やりたくない人、それぞれが思いやりを持つことで、素敵なPTA活動ができると思う。子どもたちのために一番大事なことは私たちがみんなで楽しく協力を姿を見せることではないだろうか。と述べられたことが印象的でした。

【全体会】放送作家の野々村友紀子氏による「強く生きるためにあなたに伝えたいこと-野々村友紀子が伝えたい人生で大事な事-」の記念講演でした。野々村さんは、芸人として活動後、放送作家に転身され、芸人2丁拳銃・修三さんの妻として、活躍されています。

講演の中で、野々村さんの著書の中より、ご自身の様々なエピソードを基に格言を紹介され、「自分の幸せから逃げるな！」「こどもが幸せになるためには、母・父が幸せになるために自分が努力し、幸せを追い求める」「幸せになるために①他人と比べない②不幸を手放す③小さな幸せを見つける」「嫌いな人の事をわざわざ考えない。いいところなんて一つも出てこないから。嫌いな人は何のダメージもなく、つらくなるのは自分だけ」「口角下げるな、頭下げる」「いってらっしゃいとおかえりが世の中を明るくする」「誰も助けてくれないという前に「助けて」と叫べ！」の言葉が印象的で、家庭、子育て、仕事、PTA活動と忙しい日々の中で、小さな幸せを見つけることが、「母はハハハ、家庭の太陽」につながることを教えていただきました。

第72回日本PTA全国研究大会 川崎大会

令和6年8月23日・24日 川崎市とどろきアリーナ

ウェルビーイングの実現を、川崎の地から
～活かそう「緑」のカ～

私たちは、未来を担う子どもたちを慈しみ、見守り、支えて行きたいという思いを抱き、様々な「緑」によって繋がった社会生活を営んでいます。子どもたちを学校や地域で育てること、PTAに集うことも同様です。出会った仲間と学校や地域をより良い居場所にしたい、この想いが力となり、私たちの心を豊かにしてくれます。しかし、近年の活動制限や交流の減少でやりがいや意義を感じる事が少なくなり、「緑」が妨いだ関係にほころびが生じてきました。

今やるべきことは、自分の生きる道だけでなく、家族や友人、学校や住む地域、それぞれの幸せのあり方に再び思いを馳せること、すなわち、ウェルビーイングの大切さを、「緑」が織りなす繋がりを通じて、社会に伝える事ではないでしょうか。

そこで本大会では、参加者が一つの場に集い、様々な分野に及んで大きく変化する様子とその本質とを集中して共有しながら学び、その大切さを感じられる場にしたいと思います。



大会会場／1日目・2日目ともに、この会場に全参加者が集い、学び・共有し、交流しました。

大会趣旨のもと、

- 1 スマートな学び：参加者全員が1会場に集結して1つのカリキュラムを学ぶ
- 2 アクティブ・ラーニング：聴いたことをもとに意見交換を行い、自分のアイデアを生み出す。
- 3 緑を感じ、緑を活かす：体験を共有し、交流を通して緑を紡ぐ
- 4 ウェルビーイングへの第一歩：自分の生活に落とし込むアクションプランを各自でつくるといった、ユニークな運営がなされました。

「ウェルビーイング」「社会教育」「多様性」他、複数のキーワードをもとに、参加者全員が複数の講話等を聴き、その内容をもとに近くに座っている参加者同士で話し合うといった形式で会が進んでいきました。

これらたくさんの学びの中で、「人間の性格は生まれつきのものだから簡単に変えることはできない」といった内容について、いくつかの研究結果や数値等を示しながらお話しされたのが印象に残っています。

「簡単にには変えることができるが、外部からの刺激による改善も十分に期待できる」とのことでした。

PTAが担っている社会教育は、子どもたちにとって（もしかしたら保護者の皆様にとっても）よい刺激を与えられる貴重な機会となりうると感じました。PTAの果たすべき役割の大きさをあらためて感じることができる貴重な時間を過ごすことができました。



大会参加証のリストバンド。地方によって色分けがなされており、違う色のリストバンドをしている人達が近くの席に座ることにより、たくさんの方々と交流ができました。

令和7年10月18日・19日開催

第70回日本PTA九州ブロック研究大会 福岡市大会

大会実行委員長挨拶



実行委員長の勝野晃と申します。

本大会は、「UP!PTA！ ～これからの未来を描くPTA～」を大会スローガンとしました。

PTA活動の未来に向けて意見交換や情報共有の場を提供し、参加者一人一人が新たなエネルギーを得て、それぞれの地域に持ち帰っていただく大会にしたいと考えています。

私どもPTAを取り巻く環境は、決して楽観視できるものではありません。

とはいえ、私たち保護者の活力の源は子どもたちの笑顔です。

子どもたちの未来のために、まずは私たち自らの気持ちをUP！

そんな大会となるよう準備してまいります。来年の10月18日・19日、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

第79回指定都市PTA情報交換会 熊本市大会

令和6年9月12日・13日 ザ・ニューホテル熊本

「かけはし」～子ども・保護者・学校・地域…そして未来～



全国より16の政令指定都市からPTA関係者が123名参加しました。

開会式では、主催者を代表して指定都市PTA情報交換会代表 濱浩二氏が「熊本市へようこそ。子どもたちの今と未来への「かけはし」となる学びを深めていきましょう」と挨拶され、続いて、前回開催地の相模原市PTA連絡協議会に感謝状の贈呈が行われました。

- 4つのテーマに分かれて分科会が開催されました。
- 1 PTAの在り方を考える「組織・運営」
 - 2 防災について考える「研修活動」
 - 3 地域学校協働活動とコミュニティスクールの一体的推進を考える「地域連携」
 - 4 ICTの活用について考える「広報・情報活動」
- それぞれの分科会では、各都市の状況を共有するとともに、様々な角度から活発な意見交換がされました。

レセプションでは、分科会で繋がった参加者の皆様と更に踏み込んだ意見交換や政令指定都市に共通する課題についてなど、たくさんの情報共有ができました。各都市のPRタイムもあり、更に交流を深めることができました。

2日目は、熊本市立出水南中学校校長 田中慎一郎氏による記念講演「SOSのカタチ」がありました。現在の子どものSOSの出し方は、自傷行為、心身症、不登校など以前と比べてかなり内向化しており、表面化しない分、事態を把握した時にはかなり深刻化している状況が多くあります。そんな子どもたちのSOSを一番身近な私たち大人がどう受け止め、どう向き合い、どう助けたいのか、実際にを行ったデジタル技術を用いた取り組みを事例に講演されました。

子どもたちを孤立させないためのアイデア満載の取り組みと、PとTの垣根を超えた一体感のある数々の活動に感銘を受けました。今まで以上に子どもたちを取り巻く環境を理解し、子どもたちにとって、頼れる居場所の確保に尽力してまいります。

早寝早起き朝ごはん啓発講演会



『寝る子は育つはホント～子どもの睡眠教育(眠育)の視点から～』

家庭における基本的生活習慣の定着が学力や体力、さらには自尊感情やコミュニケーション力などに関わる重要な要素であることをご存知でしょうか？

子どもの心身の健やかな成長を促すためには、早寝早起きすることや朝ごはんをきちんと摂ることなどがとても重要です。

今講演は睡眠と子どもの成長発達の関係や、家庭で睡眠に関して何に気をつけたらいいのかヒントとなる大切な内容でした。

大西先生が子どもの睡眠教育に取り組むようになったきっかけ

- ゲームやスマホなどのメディアに依存する子どもが増えた。
- 睡眠不足によって体調不良を起こしている子どもが増えた。
- 睡眠習慣の乱れによって遅刻や欠席の日数が増え、不登校につながる事例が多くなった。

睡眠の量・質・リズム

現代の日本人の平均睡眠時間は50年前と比較しても、国際的に比較しても短い傾向にある。さらに新型コロナウイルスの感染拡大が、私たちの生活に大きな影響をもたらした。

睡眠の大敵は就寝時刻と起床時刻が平日と休日で大きくずれること(社会的時差ボケ「ソーシャルジェットラグ」)である。睡眠時間帯のズレが大きな子どもは頭痛や腹痛がしたり、モヤモヤしたりイライラしたりする、いわゆるストレス反応がみられる。睡眠のリズムの乱れが子どもたちの心身の不調につながる傾向にある。

講師紹介

大西 良 氏・・・筑紫女学大学 人間科学部 人間学科 准教授

専門は社会福祉学で筑豊地区の小中学校でスクールカウンセラーとしても活躍されています。また、福岡県内の保育所、幼稚園、小・中・高等学校、特別支援学校で生活の質の向上や不登校の予防支援として「子どもの睡眠教育(眠育)」に取り組まれています。



令和6年度 福岡市PTA協議会 会長合同研修会

演題 「30歳で校長になった僕が考える新しい学校の姿」

日時／令和6年10月11日
時間／18:30～21:45
場所／西鉄グランドホテル 2階「鳳凰の間B」

講師 柴山 翔太氏 (福岡女子商業高等学校 校長)

現在34歳、何と4年間校長を務めさせていただいております。今でもよく「最年少校長の人ですよね」を言われます。これまで30歳代の人に校長の話があったにもかかわらず断られたのか、自分が初めて30代で声がかかったのかはわかりませんが、もしそうであれば宝くじよりもすごい確率の話なのかもしれません。

このお話をいただいた時には、「これはチャンスなのか、ピンチなのか。」判断に迷いました。もし、お引き受けて1年ももたなかったら、そのことを周囲の人から言われ続けるのかとも思いましたが、僕自身がわくわくするような学校を創りたいとの気持ちが勝り、お引き受けすることにしました。

陸上界には、「9秒台の壁」と言われるものがありました。「日本人のフィジカルでは9秒台は無理だよ」と誰しもが思っていました。しかし、一人が9秒台を記録したら、ものの数年で次々に9秒台の記録を出す者が現れました。もしかしたら、私が30歳代で校長を引き受け、面白い学校づくりができたら、次々に後続く者が出てくるのではないかと思います。

つい最近まで、もしかしたら今でも、子どもたちが自分が進む高校を選ぶときに、「自分はこのくらいの偏差値だから、このくらいの高校かな。もう少し上のレベルの高校にチャレンジしようかな」といった選び方をしてるのかもしれない。せっかく自分で進むべき高校を選ぶことができるのであれば、それぞれの高校がテーマをもち、それが選ぶ視点の一つとなることが望ましいと思います。ですから、僕は学校に色を付けたいと思い、福岡女子商業高校といったら『挑戦』これを中心に据えて教育活動を行っています。

なぜ『挑戦』なのか。その定義として、『挑戦』とは「できそうなことにトライすること」ではなく、「難しいかもしれないと思うことに、勇気をもって挑むこと」だと考えています。僕自身が校長になるかどうかを悩んだ時は、それこそもう本当に膝がガクガク震えるほどに怖くて仕方がなかった中で決断した『挑戦』でした。子どもたちにも是非このような経験をしてほしいと考えています。

僕も、基礎学力というものはもちろん大切ですし、中学校までは一生懸命にやるべきだと思っています。しかし、15歳から18歳の子どもたちに対して、基礎学力だけで伝えることができない学校だったら、疑問を持ってほしい。「そのほかのことは大人になったらわかるよ」といったような考え方でなく、高校時代にこそ、たくさんの『挑戦』をして、たくさんの経験を積み上げることが大事なのではないかと僕は信じています。

「会長合同研修会を終えて」

このお話を聞いて、とても勉強になりました。子どもたちにとって挑戦しやすい環境や安心して過ごせる場所を作っていきたいです。ひとりの親としてももっと成長したいです。

広報委員 相田・坂本

「生成AIが学校を変える？」 福岡市立三宅小学校 校長 土生 圭子

生成AIの登場により、仕事の効率性や創造性は飛躍的に向上し、社会の在り方が大きく変わろうとしています。AIは、大量の情報を学習し、その巨大なデータベースをもとに運用されています。そして、インターネットが使える環境があれば、だれでも、ChatGPTを活用できるようになりました。

EU諸国をはじめとする多くの先進国では、学校でのChatGPTの利用が禁止されたり、制限されたりしています。日本でも、小中高生の読書感想文や夏休みの自由研究などでの利用が一瞬で上がります。宿題そのものの在り方が問われる事態が生じています。

文部科学省は、昨年「生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」を策定し、読書感想文やレポートで生成AIが作成した文章を自分のものとして提出することや、テストで利用することを「不適切」とする一方、「子どもたちがグループで考えをまとめたり、アイデアを出したりする段階で、足りない視点をしつつ議論を深めるために利用することや、英会話学習の相手として、生成AIを活用することは適切な例」としています。子どもに生成AIのメリットとデメリットを説明し、「疑問」や「問い」、「問題意識」をもって使いこなせるよう指導の充実を図ることが求められています。

今後は、インターネットを使えばすぐに答えが得られるような「知識集約型の学び」ではなく、「正解のない課題を解決するための協働的で深い学び」を推進するために、生成AIが授業の中で活用されるようになるでしょう。

